

目 次

大日方喜一郎氏との出会い(伝承者について).....	3
軍足との出会い(伝承地について).....	4
1. サルがむこになる話.....	6
2. うり姫の話.....	8
3. まま子いじめの話.....	10
4. 鳥のみじじいの話.....	11
5. 穴に落ちたヤキモチの話.....	14
6. セイメイの針の話.....	17
7. みそかい橋の話.....	18
8. 燈明の火をもらう話.....	20
9. 下僕のへいしろうの話.....	22
10. オ二と酒盛する話.....	24
11. テングの麦飯の話.....	26
12. ダイダラボウの話.....	30
13. みずなし島の話.....	33
14. 一休和尚の話.....	34
15. 気の強い姑の話.....	36
16. 仲の悪い嫁と姑の話.....	37
17. へっぴり嫁の話.....	38
18. ばかむこダンゴを食う話.....	40
19. ばかむこお札をはる話.....	41
20. ネコ寺の話.....	42
21. 何が一番こわいかという話.....	44
22. キツネとムジナの化かしあいの話.....	46
23. キツネに化かされる話.....	47
24. キツネ火の話.....	48

例 言

1. 本書は第18回企画展示「子どもの生活誌」における民俗調査の一部をまとめたものです。
2. 本書に掲載した民話はすべて大日方喜一郎氏（長野市上ヶ屋軍足）の御協力によりまとめたものです。
3. 本書に掲載した絵はすべて画家永野裕子氏により描かれたものです。
4. 本書の内容における責任の一切は長野市立博物館にあります。

第18回企画展示

「子どもの生活誌—おもちゃと行事」

開催にあたって

しろがねもくがねも玉も何せんに

勝れる宝 子にしかめやも

山上憶良

万葉集のこの歌にみられるように、子どもは遠い昔から、銀よりも、金よりも玉よりもすばらしい最高の宝物とされてきました。ただ言葉だけでなく、この宝を守り育てる具体的な方策が、家庭でも社会にも生活の中に織り込まれ、着実に行われ継承されて、実をあげてきました。

ところが近年、高度成長の波に飲まれて、この伝統が都会では忘れ去られようとしています。だが幸にも地方特に山村では民間に伝承され、年中行事、人生儀礼や遊びなどの中に、いまでも伺い知ることができます。

このたび長野市の山間部で、子どもをめぐる民俗調査を行い、それを核に市内および広く県内の関係資料を合わせて展示して、特別講演ともども地域の民俗の特色などをご理解いただく機会を設けました。

子どもの活動は遊びが中心です。遊びを通して心身の成長をすすめ経験をふやし、敏捷・器用・創造などの力を身につけていきます。子どもは環境の子といわれるほどまわりの影響を受けやすいものです。したがって適切な環境の中で遊びを通して望ましい活動や経験を体得させなくてはなりません。

たとえば、鬼ごっこではだれが鬼の役を引き受ける、双六では一回休・振り出しへ戻るなど、いやでもがまんしてきまりを守ることでみんながおもしろく遊べることを学びます。カルタでは繰りかえすうちに覚えるともなく文字や格言などを覚えます。民話では古老の語る身近かなおもしろい話に、子どもが息を飲み節々でこつくりして憑かれたように聞き入っている姿がみられます。

楽しんで遊んでいるうちに、しきたりや作法、人の心や生き方、学習の基礎などが慈雨のようにしみこんでくる巧みな教育の仕方に、素朴ではあるが洗練された民俗の知恵を感じます。

近ごろ、地方やふるさとがみなおされる気運がみられますが、土地や安らぎの場としてだけでなく、日本文化の源流としての地方の意義や役割がみなおされ、温故知新のことはどおり、先人の知恵が未来に生かされることを願い、この催しがそのためにいささかなりとも役立つことを期待しています。

長野市立博物館長

掛川一夫